

四郷郷土資料保存会



会長の後藤 公三さん(左)
副会長の古川 芳彦さん(右)

■お問い合わせ
「四郷郷土資料館」
(土曜日開館)
四日市市西日野町3375
TEL 059-322-5675
(四郷地区市民センター団体事務局)

四郷郷土資料保存会

平成17年に結成し、現在会員数は31名。「四郷郷土資料館」の運営・管理をはじめと、地域の歴史・文化を発信するための幅広い活動が認められ、平成25年度の四日市市民文化奨励賞を受賞しています。

三重県内で活動するグルーブを紹介する「いま、グルーブネット」。今回は「四郷郷土資料保存会」をご紹介します。この日は、現在の西日野町に建つ「四郷郷土資料館」にお邪魔して、会長の後藤公三さんと副会長の古川 芳彦さんのお二人に話を伺いました。

—— 会が結成されたきっかけは、「四郷郷土資料館」が関係しているのですか？

後藤：そうです。この資料館は、かつての四郷村役場として、大正10(1921)年に建設され、その後、四日市市役所四郷出張所となっていたのですが、昭和

54(1979)年ごろに老朽化などの理由から、取り壊しの話がもちあがったのです。それで、旧四郷地区の人をはじめ、笹川地区、高花平地区の3地区で結成する「四郷地区連合自治会」が中心となって、保存活動を始めたのがきっかけです。

古川：その後、同57(1982)年に市の文化財に指定され、翌年に現在の「四郷郷土資料館」になったことから、自治会の活動の一環として維持管理活動を続けていたのですが、平成17年に「四郷郷土資料館」の建物および資料の維持管理などを専門に行う会として発足しました。

—— 周辺地域の人々にとって、どうしても残しておきたい、想い

入れのある建物だったのです。後藤：こは、私たちにとってシンボリックな存在なのです。外観全体が白塗りで、正面玄関には車寄せもあって、明治時代の洋風建築を思わせるでしょう？ 建設当時、日本一ハイカラな役場といわれたそうです。古川：高台に建っているから、町のどこからでも見えます。反対に、ここからは町並みや周囲の山々、遠くは知多半島が見渡せることもありますよ。

—— そんな素晴らしい建物を建てたのは、誰なのでしょう？

後藤：三重紡績会社の創業者である10世伊藤傳七(1852〜1924)の寄付によって建てられました。三重紡績会社は、

大正3(1914)年に大阪紡績会社と合併して東洋紡績株式会社となり、傳七が2代目社長に就きます。実は彼は、ここ四郷の出身なのです。

古川：10世伊藤傳七が寄付した金額は、現在の価値ではおよそ4億円といわれています。彼は、小学校や商工学校の設立にも関わるなど、四日市市の産業や教育の発展に多大な貢献を果たしたのです。

後藤：四郷では、10世伊藤傳七と同時に近代日本の産業発展に寄与した、5世伊藤小左衛門(1819〜1879)も欠かせない人物です。2人は従兄弟同士で、10世伊藤傳七に紡績を勧めたのは、5世伊藤小左衛門

だといわれています。

—— 近代日本の産業発展に貢献した偉人が2人もいるというのは、すばらしいですね。

後藤：私たちの活動も、四郷の先覚者の功績を後世に語り継いでいこうというのが原点です。そのためには、資料館の運営・掃除・章刈りなどを一生懸命する一方で、膨大な資料を収集・記録・保存・整理して、館内に展示したり、ガイドマップを作成したり、DVDにまとめるなど



展示風景



地域の子どもたちが見学した際の様子※

ば昨年4月から、季節ごとに特別展を始めました。10月には「八王子線物語」と題して、現在の「四日市あすなろう鉄道」の歴史を振り返る展示を行いました。皆さん、懐かしがってくれました。今後も、さまざまなテーマの特別展示を行うべく予定です。

—— 10月といえば、毎年「星空コンサート」が開催されますね。

後藤・古川：そうです。私たちは、会場設置のお手伝いをするのですが、星空の下、正面玄関前で聴く演奏は、本当に素晴らしいですよ。

—— ありがとうございます。

お話の後、館内をご案内いただきました。そこには、地域の歴史資料に加えて、皆さんの想いもいっぱい詰まっていました。

インタビュー：中村真由美



「四郷郷土資料館」外観

の活動に力を注いでいます。古川：現在、資料を展示しているのは1階で、製茶・醸造・製糸・農業などの各コーナーに分けて展示しています。なるべく、分かりやすく、手にとっても大丈夫なもの、触れてもいいようにしてあります。子どもたちは、今では珍しくなった黒電話の受話器を手にとって、楽しそうに鳴らしていますよ。

—— 来館者も年々増加しているとのことでした。

後藤：この資料館が「四日市あ

すなろう鉄道」の「西日野」駅から徒歩約10分の距離にあるというのも一因になっているのでしょう。同鉄道は、線路幅が一般より狭いナローゲージ鉄道として、人気になっていますから。また周囲には「亀山製紙室(山工場)」をはじめとして歴史あるお寺など、魅力ある場所が数多く存在します。これらを巡る人が増えていますね。

古川：私たちが、何度も足を運んでもらうために、展示の改善や充実が心がけています。たとえ

※印の写真は取材先から提供していただきました